

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271501050		
法人名	有限会社 安富鉄工		
事業所名	グループホームえびらお		
所在地	長崎県佐世保市江迎町栗越801-2		
自己評価作成日	令和4年1月24日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和4年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①落ち着いた自然環境の中にあり、施設の玄関正面は広い芝生になっていて散歩、日光浴を楽しむ事ができる。園庭の周囲には季節の花を植え、季節ごとに楽しめる。
- ②自家農園があり、季節に応じた野菜や草花の栽培及び収穫を利用者様とともに楽しむ事ができる。
- ③各種体操や交流を取り入れ、ご利用者様の心身機能や生活の活性化を図ると共に個別作業やテレビ視聴等ご本人がリラックスして過ごせるように支援している。
- ④全室個室、冷暖房完備、水洗トイレ・洗面所・押入れ・ベッド付の居室なので、プライバシーが保てる環境になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念である「笑顔で、楽しく、ゆっくりと」を基に、職員が話し合っで決めた4項目の介護理念を、管理者と職員が意識し笑顔での実践に繋げている。利用者の思い、習慣、ペースを大切に、起床、就寝、食事時間等柔軟に対応していることは、利用者の穏やかで安心した暮らしに繋がっている。今年度、念願であった2階の大型バルコニーが完成し、スロープから安全な避難が可能になったことは特筆すべきである。食事に関しては、一部外注品を利用しながらも、自家菜園の野菜や旬の食材を用い手作りの料理も多く、利用者の好みや食べたい物を工夫しながら提供している。毎朝、会長が訪れ利用者や職員に声を掛けることで気さくに話せる間柄となっている。管理者、職員のチームワークも良く、利用者が自由に、のんびり穏やかに暮らせる理念の具現化が見える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[笑顔で 楽しく ゆっくりと]の理念を基に職員と介護理念を設定し、朝礼や申し送り時に唱和し意識付けを行うよう努めている。	事業所理念を達成するため、管理者と職員が4項目の介護理念を作り上げ、目に付く場所に掲示し、意識しながら日々の実践に繋げている。職員が忙しい時ほど笑顔での対応を意識し心掛けていたり、利用者のペースや思いにできるだけ寄り添う支援に、理念の具現化が見える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス等の感染対策のためあまり交流はできていない。	自治会の一員として、地域祭りや行事に協力すると共に回覧板を回しており、近所からは野菜の差し入れがある。新型コロナ禍以前は地区の敬老会参加、幼稚園児のマーチングや合唱披露の訪問、隣接の事業所との交流も多かったものの、現在は見送っている。収束後は再開予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護や制度等についての相談がある時は、市の長寿社会課及び包括に繋げるなど協力体制の維持に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面にて市の職員、地域の方、入居者代表、ご家族に毎月の行事等の実施状況及び来月の主要行事等を報告し、意見を聴取するとともにサービス改善に活かせるよう努めている。	年6回、現在は書面会議である。規定の参加者に行事取り組み等やヒヤリハット件数、入所状況報告の議事録と確認意見を郵送し、意見を求めている。ただし、議事録内容が時系列の箇条書きの報告となっており、参加者から意見なしとの回答が多い。	参加者が積極的に関わるために、書面会議内容の検討が望まれる。委員が意見、感想、要望等を述べやすいよう工夫し、意見等の収集を図り、運営推進会議を更なるサービス向上に活かす取組に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要の都度、電話で担当者とのやり取りを行うとともに、電話でのやり取りができない場合は、FAXを活用して質問を送付し解答を求めるなど、関係の保持に努めている。	介護保険の申請や手続きには市の窓口へ出向き、急用の場合は担当者に電話で問い合わせしている。質問や担当課への報告などはメールやFAXが主である。また地域包括支援センターとも空室状況などの情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で議題にあげ「拘束のないケア」に努めている。	2ヶ月に1回、職員会議で身体拘束のないケアの研修を行い、言葉による制止なども職員間で注意し合っている。日中は玄関の施錠も無く、利用者が自由に出入りでき職員が見守り支援している。事業所は、身体拘束チェックリストにて日々のケアを振り返り、身体拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で議題にあげ虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者様がおられれば、活用できる様支援する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みや契約時には充分な説明を行い理解を得るよう努めている。また入所後も、疑問・質問がある場合は納得されるまで説明するように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様が職員や処遇等に意見や要望等があると感じる時は、話を十分に傾聴できるよう心掛けるとともに、家族の来所時に報告し意見や要望等を確認、施設運営に継続して反映できるよう努めている。	事業所のえびらお便りを家族に郵送し、利用者の暮らしぶりを知らせている。また、新型コロナ禍であるが、窓越しの面会は制限がなく、感染者数が収まっている時には、玄関先での面会を支援している。遠方の家族と電話やビデオ通話で会話する利用者もおり、支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や日常会話の中で出た意見や提案を、その内容に応じて臨機応変に対応している。	職員は日常的に管理者に意見や要望を伝えている。今年度、念願であった2階の大型バルコニーが完成し、スロープから安全な避難が可能になったことは特筆すべきである。会長は毎朝訪れ、職員に声を掛けており、話しやすい雰囲気があり職員が直接要望を伝えることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務態度や利用者様への対応など日々の状況を管理し、就業環境等については職員個々に意見を聞くように努めている。また意見箱を設置し自由に意見等を伝えられる環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修及び資格受講等に対応し、可能な限り参加させ、意識向上を図り、職員同士のモチベーション及びレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や市等の研修会・勉強会に参加し、情報交換等の機会を活用して自施設の質の向上に繋がるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の関わりを特に重要と考え入所前に得た情報をもとにコミュニケーションを取りながら信頼関係を築くように努め、利用者様のペース(起床・就寝)を大切に関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	会話の中で要望や不安等を話しやすい雰囲気作り努め、ご家族・ご本人の思いをくみ取るように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の話や事前のサマリー等で情報を収集しながら必要な支援を見極め、まずはホームに馴染んでもらえるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意見を尊重しながら洗濯物たたみ等、できる事は一緒に行うよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との電話や面会時には、日頃の状態・状況や医師からの説明等を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス等の感染予防のため現在はあまりできていないが、可能と判断する時には利用者様やご家族の希望に添って交流できるよう努めている。	新型コロナ禍であっても、ガラス越しの面会を支援している他、家族からの電話を繋いでいる。コロナ禍前はドライブして墓参りに出掛けたり、かき氷を食べて楽しむなど馴染みの場との継続に努めている。管理者、職員は収束後には家族に自由に会いたいという利用者の希望を叶えたいと願っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や関係性等を踏まえてフロア内での居場所を考えたり、職員が会話の仲介に入ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も連絡や相談があれば、その状況に合わせて対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が可能な方は思いや希望を聞き、発語困難な方は表情等を観察する事で気持ちを慮りできるだけ利用者様本位の支援ができるよう努めている。	職員は利用者よりリビングや居室で一人になった時には、昔の話を聞いている。聞き取った内容は記録し職員間で共有している。「つぶやきノート」には本人が発した言葉を記録し、思いを汲み取るよう工夫していることがわかる。発語困難な場合は、ジェスチャーを交えて話し掛け、うなづき等の返答を得て、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等に入所者様の生活歴や暮らしぶり・趣味嗜好等を聞き取り、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の言動を観察する事や他職員との情報交換を行う事等により把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議等で課題やサービス内容について検討している。ご家族にも意見や要望を尋ねている。	長期12ヶ月、短期6ヶ月の目標設定があり、毎日チェックし、モニタリング、カンファレンスを毎月実施している。見直し時には担当職員が主となり、本人、家族等、医師の意見を聞き計画に反映し家族の同意を得ている。評価表もあるが、本人の思いと計画の具体的な内容の連動がわかり難い。	本人の暮らし方の基本となる介護計画には、思いを計画に反映し、より個別の計画作成となるよう、支援内容の検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や観察事項等への記入や、申し送りや情報交換・共有しケア会議で検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に応じ必要なケアサービスを提供できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス等の感染予防のため現在は難しいが、電話や手紙のやりとり等については希望に応じて支援を行なっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の他、ご利用者様の状態に応じて協力医療機関等と連携し適切な医療を受けられるよう対応している。	利用開始以前の心療内科の受診は家族対応である。定期的な主治医の往診と、週1回の訪問看護があり、専門科の受診は職員、家族が同行することもある。受診結果は双方で情報共有している。夜間の急変時も主治医の指示で適切な医療受診ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時や訪問看護利用時に報告や相談を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはなるべく速やかに情報提供や状態報告を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は入居時に状態急変時や終末期の対応について書面によりご家族の意向を確認している。また状態悪化時その状態をご家族に報告し都度意向の確認や対応の検討を行ない、その内容を職員に周知している。	重度化した場合の指針と看取り介護の指針があり、今年度から利用者の状態悪化時の確認書を作成し家族等の意向を把握している。終末期を迎えたい場所、医療についての希望など時期を見て主治医の説明があり、意向の変化に何時でも対応できることで家族等の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成や内部研修・自主防災訓練にて救急救命法等の講習・実技を行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	マニュアル作成や訓練により対応できるよう努めている。火災に対しては通報装置やスプリンクラーが設置されている。	年2回避難訓練を行い、内1回は消防署立会いがあり、助言を基に2ヶ月毎に昼夜想定で自主防災訓練を継続している。今期2階に設置したバルコニーとスロープはスムーズな避難に繋がっている。通報装置の住民登録や食料備蓄、持ち出し台帳の整備はあるものの、避難後の本人確認方法等はこれからである。	災害時に利用者の安全を守るため、職員以外であっても、本人確認ができるよう検討、取組に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なるべく理解・安心できるように配慮して言葉かけや会話、働きかけを行なっている。	職員は、利用者を苗字にさん付けで呼ぶことを基本としており、同姓の場合は、名前にさん付けで呼ぶこともある。トイレでの排泄が困難な利用者には、優しく丁寧に敬語で話し掛け、人格を尊重した支援に努めている。職員は入社時に守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の状態に合わせ希望の聞き取りや、選択できるような言葉かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間など決めておらずご本人が起きた時に朝食をとり、眠たい時に就寝されている。好きなテレビを遅くまで見られる方もおられ、その人のペースに合わせて支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々着用されている衣服やお洒落は利用者様の自主性に任せている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやお盆拭き等、その人の能力に合わせて、できる事を行ってもらっている。また誕生会では好きな物や食べたい物を聞き可能な範囲で献立に取り入れている。	主菜は外部業者に依頼しているが、季節の食材や畑で収穫した野菜を使って副菜を提供している。正月は雑煮や煮物で祝い、毎月の誕生会ではちらし寿司やいなり寿司とケーキで祝っている。刺身が好物の利用者が多く、冬場に提供している。パンの日にはシチューを添えたり、カレーの日があるなど、食事が楽しくなる工夫がわかる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録して利用者様の摂食状態を把握し、十分に栄養・水分が摂れるよう食事の形態や声かけ・環境等の工夫を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じ声かけや援助を行ない、口腔内の清潔を保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の能力等の状態に応じ、時間毎やご本人の様子によってトイレの声かけや援助を行なっている。	排泄チェック表に記入しその日のパターンを確認しながら、時間を見て誘導している。病院退院後におむつからリハビリパンツに軽減している他、職員が検討を重ね、リハビリパンツから布パンツに改善した人もいる。パッドのサイズは、本人に合ったものとなるよう、職員間で話し合い支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分に水分を摂ってもらったり、トイレ時腹圧の声かけを行なったりしている。また便秘時には服薬等の援助を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	可能な範囲で時間や順番をずらす等、対応している。またクリーム・軟膏の塗布等により満足感を得られるように努めている。	週3回の入浴を支援している。入浴でない日は、清拭と更衣を行い、清潔保持に努めている。季節を感じるゆず湯は管理者の自宅に成っているゆずを持参しており、利用者の楽しみとなっている。入浴拒否時は無理強いせず、翌日に支援するなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子・状態を見ながら静養を勧めたり、照明・室温や寝具等も個々に応じて考慮しながら支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書等を確認しながら薬剤や持病等を把握し、状態観察や主治医等への情報提供に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団での体操・レクリエーションのほか会話や歌・作業・家事活動等、個々の趣向や能力に応じて楽しく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防のため難しくなっている事が多いが、可能な時には園庭の散歩や外気浴を楽しめるように支援している。	新型コロナ禍で、外出の機会が減少しているものの、事業所の広い庭にベンチを運び、景色を眺めながらお茶やおやつを楽しみ外気浴している。2階は新しくなった広い木製バルコニーで日光浴を支援している。周囲には桜が咲いているため、居室から眺めている利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力・希望により、多少の金銭を管理される方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙のやり取りを支援している。通話が困難な方には職員が仲介を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・時期に応じた飾りつけの他、空調・照明等快適に過ごせるよう配慮している。	リビングはバルコニーに自由に出ることができ、菜園や自然豊かな景色が見え開放的である。季節の花や飾り付けで季節を感じ、料理の音、匂いが家庭的である。利用者が好きな塗り絵やテレビ鑑賞など、のんびりと過ごす様子が覗える。消毒や掃除、換気も行き届き清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル等、居心地良く過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や花・ぬいぐるみ等、好きな物を置いたり自宅から持参された物を使ったりされている。	居室はトイレ、洗面台、押し入れを装備し、ベッドは本人の好みや状態に合わせ自由な配置である。出窓やクローゼットに仏壇や神棚を祀る利用者もある。家族や犬の写真、使い慣れた家具を持参し、馴染みの中で暮らせる工夫がある。職員が掃除や換気、除菌を行い清潔で臭気も無い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のトイレや手すり等、なるべく安全に移動・自立できるように設置されており、ベッド・タンス等の位置や向きを工夫している。		